

「早期経営改善計画策定支援」 実務研修会



平成29年12月4日(月)ホテルモントレ京都にて、「早期経営改善計画策定支援」実務研修会が開催されました。64名と多くの方々にご参加いただきました。

第1部「早期経営改善計画策定支援」実践事例紹介



司会
中小企業支援委員
本井 哲也 先生

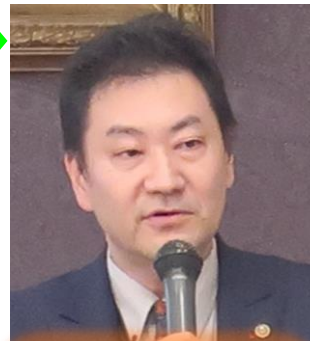
「早期経営改善計画策定支援」事業（以下プレ405事業）のキーワードは、**対話**です。中小企業の発展のためには、金融機関融資は欠かせません。しかし、金融機関と関与先の間には、**情報の非対称性**があります。プレ405事業に取り組むメリットは、それを解消し、正しく金融機関に**事業性を評価してもらうため**、企業と金融機関が**信頼関係を築ける**ことです。

特に、現在人工知能（以下AI）の発達は著しく、会計事務所は、AIに仕事を奪われる可能性があります。今後、会計事務所が生き残る条件は、経営支援や経営助言を事務所のメイン業務とすることであります。

事務所が目指すべきは、**ビジネスモデル俯瞰図をきちんと作って、関与先のビジネスモデルを理解する**ということです。監査の際「変動費率を抑えてください。」と言うのは経営助言ではありません。変動費率を抑えるためにどうしたら良いのか、具体的に経営助言するためには、関与先のビジネスモデルがわかっていないとできません。

会計事務所立ち位置が、『税務と会計を通しての中小企業支援』から『**中小企業支援の一環としての税務と会計**』へ変化してきています。

当事務所では、**プレ405事業は税理士の本来業務**と考え取り組み、AIを逆に活用し、**経理や監査を効率化し、経営者との対話に時間を使うようにすることにより**、事務所の付加価値向上に繋げております。



TKC近畿京滋会
中小企業委員会
委員長
久乗 哲 先生

第2部「実践会員によるパネルディスカッション」

コーディネーター：久乗 哲 先生
パネリスト：田中 久喜 先生
パネリスト：粟津 英昭 先生
パネリスト：角谷 雅子 先生
パネリスト：村田 裕人 先生

なぜ早期経営改善計画策定支援をやろうと思ったのか？

- ・税務と会計をやっているだけでは、税理士の仕事はAIにとってかわられる。その危機感と、職員も社長と経営について言葉を交わすほうが楽しいのではないかと考えたから。
- ・金融機関から「経営改善計画を策定できる事務所」として選ばれるようになるため。
- ・補助金制度があったから。通常のMAS業務の延長と考え、取り組んでいる。
- ・「企業経営を如何にサポートするか」を事務所方針として掲げている。もともと事務所の目標として、今年は10件やろうと設定していたところ、この事業が始まったため、利用した。



パネリストの先生方

第3部 TKCシステム業務フローとTKC支援策



株式会社TKC
センター長代理
小西 恵廣

現状分析から予算策定・モニタリングまで**継続MAS**にお任せください！



多くの皆様にお越しいただき
ありがとうございました！

●アンケート結果●

- ・ 所長自身の覚悟次第ということを再認識しました（所長）
- ・ 1社としかかやってみます。具体的なところはそこから（職員）
- ・ 今後我々が取り組むべき業務だと強く感じました（職員）
- ・ 具体的提案方法、考え方などの話が多数あり、わかりやすかった（職員）
- ・ この取り組み以前に経営改善計画を社長と共に作成していくことがとても大事なことだと感じました（所長）